

「不可思議について」

最近あまり使われなくなった言葉の中に、不思議というものがあるのではないかと思います。この言葉は、不可思議という「ことばで言うことも心で思いはからうこともできない」という意味あいになります。

山口県出身の金子みすゞという詩人がいましたが、このような詩がございませぬ。

蓮と鶏

泥のなかから蓮が咲く。それをするのは蓮じゃない
卵のなかから鶏が出る。それをするのは鶏じゃない
それに私は気がついた。それも私のせいじゃない

花ひとつ咲くのも不思議なことじゃないかと思います。周りを見渡してみてください。よくよく考えてみると予期せぬことばかりじゃありませんか。人との出会いであったり、人とのつながり、自分の思いを超えてお育てをいただくご縁をいただいています。不思議というしかないように思います。外出先でひょっこり出会ったり、思いがけないことに遭遇したり、まあそれが不思議なことですよ。そんな不思議なことがいっぱいあるように感じます。

蓮というのは不思議な植物です。雨が降ると葉に水が溜まります。茎の方を折って吸うと水が飲めるそうです。蓮の根はレンコンで食材になります。また実がなります。この実がお念珠になったりもするそうです。泥の中に咲きます。畑でなく泥の中に咲くというのも珍しいことですね。

金子みすゞさんは、先ほどの詩で何をおっしゃりたかったのでしょうか。一つには、当たり前のことがそうでないと。もう一つは、全く実は不思議としかいいようのない世界をこのように表現されたように思われます。